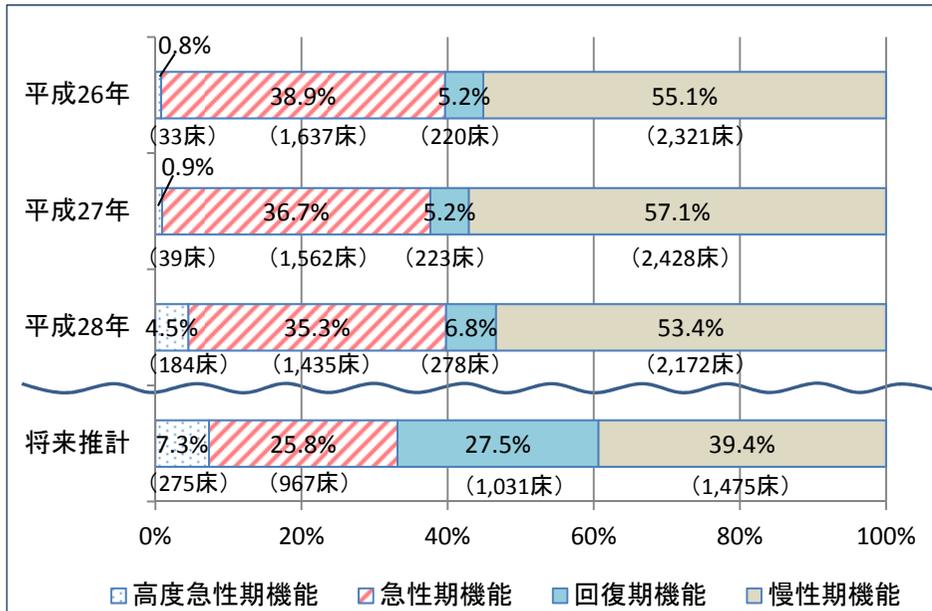
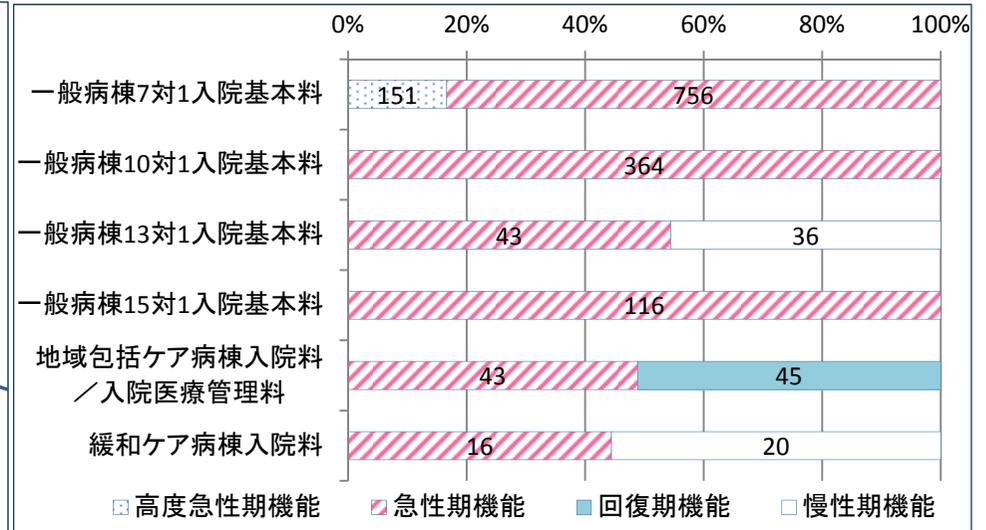


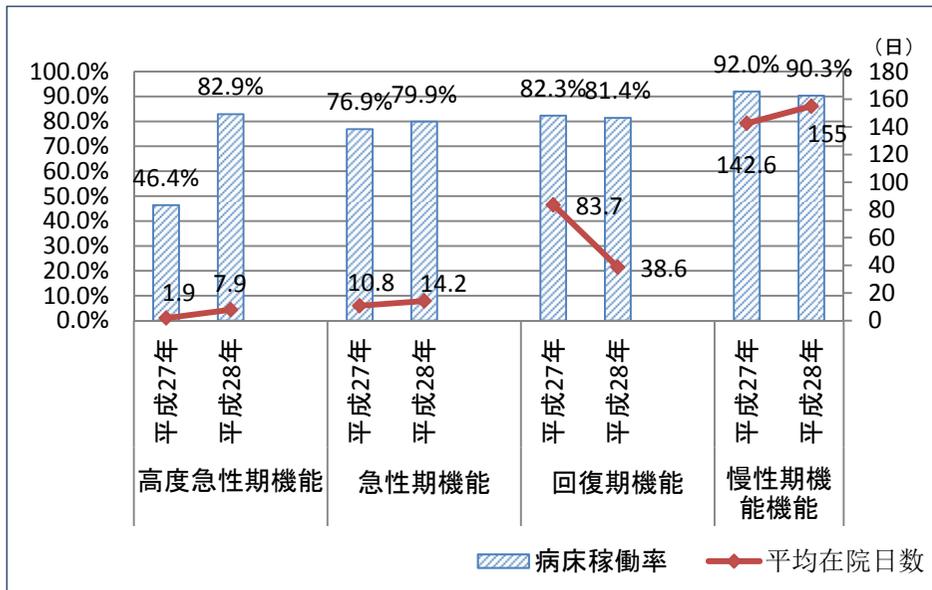
①4機能別病床数の推移(平成26年度～平成28年度)



③入院料×機能



②病床稼働率と平均在院日数の推移(平成27年度・平成28年度)



④退院後1ヶ月以内に在宅医療を必要とする患者の割合

機能	在宅医療を必要としない患者(死亡退院を含む)	自院が在宅医療を提供する予定の患者	他施設が在宅医療を提供する予定の患者	在宅医療の実施予定が不明の患者
高度急性期機能	264 (86.8%)	0 (0.0%)	2 (0.7%)	38 (12.5%)
急性期機能	1836 (91.2%)	8 (0.4%)	46 (2.3%)	124 (6.2%)
回復期機能	58 (64.4%)	4 (4.4%)	17 (18.9%)	11 (12.2%)
慢性期機能	161 (57.7%)	31 (11.1%)	28 (10.0%)	64 (22.9%)

⑤退院調整部門を置いている病院の割合 **42.9%**

- ①慢性期機能と報告された病床が半数を占めるという特徴
- ①H27からH28にかけて、回復期機能が増(地域包括ケア病床の増)
- ②急性期機能において、平均在院日数が長くなっている
- ③13:1病床において、慢性期機能と報告された病床が約半数を占める
- ③地域包括ケア病棟では、急性期機能と回復期機能の報告がほぼ均衡
- ④高度急性期・慢性期機能において、退院後の在宅医療実施予定が不明という割合が高い
- ⑤退院調整部門の設置割合が都平均に比べ低い